

一筆啓上

作左通信



第十一号

平成十三年十二月三日(月)発行

秋は、「勉強の秋、スポーツの秋」と言われるように、何をするにもとてもよい季節です。

十月十九日(金)、六西学区で、世志凡太^{せしぼんた}さんが講演をしてくださいました。世志凡太さんは、広く芸能の世界で活躍されています。世志凡太さんの名前の由来は、セシボン(フランス語で『すばらしい』という意味)からだそうです。

今回、六ツ美西部小学校にも来校され、五年生の子供たちにお話をされました。これまでの人生で、経験されたことをもとに、「子供

たちに夢を持ってほしい」という願いや思いを分かりやすくお話をしてくださいました。また、本学区に生まれた本多作左衛門についてもふれられ、作左衛門にちなんで作詞・作曲された「わがふるさと」という曲を自ら歌っていただきました。ユーモアたっぷりで流暢なお話^{たがわ}に、四十分という時間が瞬^{またた}く間に過ぎてしまいました。

十月二十一日(日)には、毎年恒例となりました「学区ふれあいウォーク祭り」が催されました。社会教育委員会が主催となって、今

年で三年目。「作左の会」も共催しています。秋らしいさわやかな風が吹く中、地域の方、親子連れなど、たくさんの方が、学区を楽しそうに歩いていました。

ウォークラリーのコースは、およそ二時間で歩くことができず。今年は、昨年つくられた「一筆啓上の碑」のコースがつけ加えられ、充実したものとなりました。チェックポイントでも、ゲームありクイズ(作左クイズ)ありと大変趣向が凝らされていました。

特に今年は、子供たちのお父さんの姿が、多く見られました。「ちょっと運動不足になっているからね」「たまには、家族で話ながら楽しく歩くのもいいね」「学区の人とたくさんふれあうことができた」「学区

にお寺や神社などがこんなにあるとは知らなかった」など、インタビュをしてみると、「楽しかった」という感想がたくさん聞かれました。また、チェックポイントで、カードにスタンプを押してもらう子供たちの笑顔も印象的でした。地域の方々とのふれあったり、学区の歴史のことが分かったりしてとても有意義だったように思います。「作左の里」での活動が、地域を盛り上げています。



▲ チェックポイントでのクイズ